

令和2年度 第2回児童館運営協議会(紙面会議) 会議録

開催期日	令和3年度2月3日(水)～26日(金)
開催場所	書面開催
出席状況	委員14名 事務局8名
傍聴人状況	0名
主な議題	(1) 令和2年度前期(4月～9月)事業報告について
	(2) 令和3年度年間事業計画(案)について
	(3) 令和2年度(前期)モニタリング評価について
	(4) その他

席次番号	委員氏名	摘要	席次番号	委員氏名	摘要
1	北澤 富美	⓪・欠	8	高鹿 祐子	⓪・欠
2	岩間 かおり	⓪・欠	9	石原 沙織	⓪・欠
3	徳永 順子	⓪・欠	10	川口 奈津美	⓪・欠
4	岡本 徳子	⓪・欠	11	櫻井 早希	⓪・欠
5	榎本 美穂	⓪・欠	12	小柴 彩	⓪・欠
6	濱松 紀子	⓪・欠	13	佐藤 明美	⓪・欠
7	桜井 幸代	⓪・欠	14	大河原 正行	⓪・欠
事務局	大石 京子	子ども未来部長	事務局	土屋 かおり	北児童館長
事務局	大村 歌子	子ども支援課長	事務局	松村 美奈子	南児童センター館長
事務局	島村 文香	子ども支援課副参事	事務局	羽田 みゆき	早稲田児童センター館長
事務局	岡安 尚登	子ども支援課子ども支援係長			
事務局	秋本 いずみ	子ども支援係主任			

会議名		令和2年度 第2回児童館運営協議会
議事	事務局	1.本会議の進行について
		新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ書面会議とし、運営委員へ資料を配布、意見書にて意見を募り、回答したものを事務局が委員に送付する。
		2.議題
		1) 令和2年度前期（4月～9月）事業報告について
		・資料1「三郷市立児童館・児童センター令和2年度前期（4月～9月）事業報告書」
	事務局	資料3「三郷市立児童館・児童センター【令和2年度前期（4月～9月）事業報告書・令和3年度事業計画】詳細」にて書面報告
		【質疑等】
		・事業等の工夫、感染防止対策について
	委員	休館中も家でできる製作や草花の様子などをHPへ掲載していて、児童館に行かなくても身近にじることが出来ている。開館中でも自宅でするように持ち帰りの製作を用意したり、作り方をわかりやすいように写真付きで複数枚掲示したりと工夫していてよかった。
	委員	1つの事業を分散して行うのは時間と労力を使うが、密になることを避けて安全を確保でき、良い工夫だと思った。
	委員	制限のある中、様々な工夫を凝らして苦労の中で実施してきた事がわかった。まだしばらくの間は、従前の状態での活動実施は難しいと思うが、この状況だからこそ生まれたアイデアもあったと思うので、事業を検討・見直ししていく機会になるのではないだろうか。
	委員	私自身コロナ後は児童館を利用しなくなり、今回の報告書を通してコロナ禍の取り組みを知った。利用者がいる程度いる事について、製作などの事業によっては、家に持ち帰って作ることができる便利さが影響しているように思う。利用時間が細かく制限されていることが行きにくさの原因の1つと考えているが、やむを得ないことと思っている。
	委員	新型コロナウイルス感染防止対策を取りながらの児童館での事業はとても難しい事だと思う。
	委員	子ども達のために事業を中止するのではなく延期等何とか実施する方向なのはありがたい。
	委員	コロナ禍の中で出来ることをできる形で進めたことは大変良かったと思う。予約制、人数制限、3密を避けながらの活動など、公共施設も学校も同じ方向でやっていくことはとても大事でそれが子ども達や市民の健康と命を守ることだと思う。
委員	実際に利用しているが、休館の間に環境改善をしたり、コロナ禍でも安全で楽しく過ごせるよう対策を取り、遊べるものも工夫していた。検温や消毒、換気等しっかりと対策していて良い。	
委員	コロナ禍の制限の中感染防止対策をしながら試行錯誤して計画を行っているよう。遊具などの貸し出し制限があり、遊ぶものが少なくなっているため、ぬりえや製作などを多めに実施してほしい。その場で長時間が難しいという人もいるので、キット配布のシステムも充実してくれたら嬉しい。	
委員	新型コロナウイルス感染拡大防止の為に職員が消毒という新たな仕事が増えたこと、大変と思う。	
		・利用制限について
委員	人数制限と遊具の貸し出し制限があると利用しづらい。予約してから行くのもキャンセルや予約が大変だから行かなくていいやと思う利用者もいる。LINEやHP等リアルタイムで簡単に予約や利用状況の確認が出来ると利用しやすくなると思う。	
委員	予約システムでの運用により未就学児のお母さんから気軽に利用できなくなったとの声を聞いた。	

	小学生は色々と遊びを制限され、現在は公園で遊ぶしかない様子である。また気軽に使えるようになってくれることを願う。
委員	感染症対策の一環で年齢で時間を区切っていると思うが、放課後に児童館に行きたい低学年の子どもでも下に兄弟がいる子は、親が行けば下の子も付いていかななくてはならないが、乳幼児が利用できる時間ではないため、行くことができないという保護者が少なくない。平日でも時間を決めて乳幼児も一緒に利用できるともっと良くなると思う。
委員	利用制限を設けたことで自由に利用できない心苦しさをを感じるが、利用者数も見ると制限がある上でも利用したいと思っている利用者がたくさんいたと感じた。読み聞かせのイベントがあるとより利用したい気持ちがあると感じる。利用者として感染防止に努め、少しでも安心できる環境を作っていることを嬉しく思う。
	・その他の新型コロナウイルス感染症の影響について
委員	新型コロナの影響で児童館利用者数が大きく減少しており、運営を担当している皆さんの苦勞がうかがえた。
委員	子ども達（特に乳幼児）が遊ぶのにソーシャルディスタンスを取るのは大変難しく、職員も大変だったと思う。普段であれば職員との親しいやり取りも児童館の一つの魅力ではあるが、直接遊び方を教えたりするのは容易ではないと想像できた。
委員	特に乳幼児の保護者は話をしたり、友達を作ったりすることを目的に利用する方が多いが、例年より利用人数がかなり少ないこと、話すとしてもお互いに距離を保たなくてはいけないことなど、他人と仲良くなるには非常に難しい環境となってしまう、残念。地域の保護者と知り合いになることはとても有益なことだと思うので初めてのお子さんを持つ保護者が少し心配。
委員	ソーシャルディスタンスの取り方、接触の配慮の仕方、過敏になりすぎず自然であってほしいと思う。手が触れていけないと思う人はそもそも利用しないと思う。過敏になりすぎること子どもたちに違和感・疎外感が生まれなければいいと思う。
	・その他
委員	近年の参加人数の減少は残念に思う。今の子ども達は外などで遊ぶよりも家でゲームをすることが増え、オンラインによる友達との交流も増えてきている。今後のことを考えると友達と触れ合ったり、声を出して笑ったりが難しくなるかもしれないが、それでもみんなで何かを一緒にやる事や話し合うことができるような場所を提供して企画が出来ればよいと思う。
委員	七夕飾りづくりについて。「願い事がコロナに関連したものが多く」は、複雑な心境になる。国民の切実な思いと思う。 「利用制限などで来館しにくかったかも」とあるが、仕方ないことだと思う。 北児童館で行われた「スクイーズ」「画用紙あみあみバスケット」を実際に見てみたかった。 南児童センター「シールアートとムクムクおばけキットの配布」について。高学年の子どもたちの反応が嬉しくなる。 「スライムづくり」や「しおりづくり」は、子どもが喜ぶイベントだと思う。
	2) 令和3年度年間事業計画(案)について
事務局	・資料2「三郷市立児童館・児童センター令和3年度事業計画(案)」 資料3「三郷市立児童館・児童センター【令和2年度前期(4月～9月)事業報告書・令和3年度事業計画】詳細」にて書面報告
	【質疑等】
	・オンライン事業について
委員	早稲田児童センターの事業計画に「Web事業」と記載があり、外出が難しい乳幼児親子にはとても助かると思う。

	年齢を広げたイベントなど、面白そうなものを各館企画していて再開が待ち遠しい。
委員	事業案の中に「オンライン事業」とあったが、とても良いことと思う。 オンラインに参加したポイントや楽しみがあると家でも楽しめると思う。
委員	オンライン事業、Zoom事業が検討されており、最新の画期的取り組みで楽しみ。
委員	すでに市のHPで配信されている料理レシピ、手遊びの動画など物は継続し、オンラインミーティングアプリZoomなどを利用して、保護者の子育て相談など気軽に話せるトークルームのような参加型の事業も考えられると思う。
	・開催方法などについて
委員	児童館で友達と遊ぶことは、子どもたちにとって大切な楽しみの一つであり、その場所がなくならないように願う。今後、感染状況が悪化したとしても事業中止ではなく、延期や開催方法の変更等により、どうしたらできるかを考える方針はとてもありがたい。
委員	「全体として安易に中止とせず…」とあるが、そう思う。本年度試行錯誤した中での発想、工夫や改善…などを活かし、状況を見ながら実施の方向で検討して欲しい。
委員	出張児童館とあるが、近くに児童館がなく、利用したくても足が遠のいてしまいがちな親子にも広く利用できるし、PRにもなり良いと思う。
委員	引き続き感染症対策を徹底し利用者が安心して利用できる環境を整えることにより本事業計画が円滑に遂行されるよう希望する。
委員	毎年恒例の季節親睦のフェスティバルなどは今までのような開催は難しいと思うが、子どもも楽しみにしているので、人数制限や時間での入れ替えをしながら小規模で良いので実施して欲しい。
	・中高生の居場所事業について
委員	新事業として中高生タイムの実施を検討していること、素晴らしいと思う。小学生以上の子どもの居場所を作ることも必要。多くの中高生が利用できる内容の事業を期待している。
委員	3館共通して「中高生の居場所としての児童館」を掲げているがなぜ。子どもの成長と共に利用しなくなるのが当たり前と思っていたが。
	・その他
委員	コロナ禍で制限がある中でも中高生の居場所、デイサービス交流、出張児童館、移動児童館、オンライン事業など、積極的な取り組みをすることで地域全体の交流ができるよう、今後もコミュニティの場としての発展を切に願う。
	3) 令和2年度前期モニタリング評価について
	・資料4「三郷市立児童センター令和2年度前期モニタリング(4月～9月)評価報告書」
	【質疑等】特になし
	4) その他
	【質疑等】
委員	利用者側として、感染対策に考慮しながら利用再開できたことは嬉しいと思う。これまでの内容の見直しと新規事業の計画をすることで利用者のニーズや関心が高まるのではないか。 私事だが三郷で過ごした小学生時代、よく児童館を利用していた。寂しいときでも行けば友達に会える、心安らぐ居心地のよい大好きな場所だった。親になってからも親子事業に参加し、大変お世話になり、感謝している。

委員	令和2年6月より待ちに待った児童館が再開し、少しずつだが利用者も児童館で和やかに過ごすことができたと思う。私も子どもを連れて何度か利用したがいつものスタッフの笑顔に安心し、子どもたちも限られてはいたが遊んだり、友達との話を咲かせたり本来の自由な生活を取り戻せつつあるようで親として嬉しく思った。
委員	何か新しいことを始める時はその準備に大変だが、これを機に児童館を広く知ってもらい、子育て支援の場としてさらに多くの親子に利用してもらえたらよいと思う。何か協力できることがあれば手伝いたい。
委員	緊急事態宣言による不要不急の外出自粛により、子どもたちが心配。職員も身体に気を付けて子どもたちのために頑張ってもらいたい。
委員	子ども達が楽しみにしていたお祭りやバスハイク等軒並み無くなってしまった年だが、いつもの日常が戻り、子どもたちが楽しく過ごせるようになることを願う。職員も辛抱の時ではあるが今後もお願したい。
委員	新型コロナウイルスの影響が数字に反映されていて悲しくなったが、その中でも児童館職員の前向きな気持ちに感銘を受けた。
委員	1日でも早くこの状況が落ち着き、また以前のようなふれあいの場として、児童館を利用する親子が増えることを願う。
委員	今回の紙面会議、本来の会議の雰囲気を知っていたからか資料の確認もスムーズにできた。
事務局	児童館は、令和2年4月から6月中旬、12月から令和3年3月下旬の2回、緊急事態宣言に伴い、利用休止となりました。 この間、空気清浄機や消毒用の次亜塩素酸生成器、おもちゃ殺菌庫、非接触型体温計の購入など新型コロナウイルス感染症対策備品の整備のほか、オンラインで参加できる幼児向け教室の開催、幼児向けダンスの公開、自宅でもできる工作キットの配布など、子どもたちが自宅で楽しめるよう各館が工夫した事業を行ってきました。 第1回目の緊急事態宣言後に開館した際は利用制限として時間を区切る入替制と、各館に合わせた定員制を取り入れ、現在も継続しております。 さらに感染症対策として、1時間ごとの換気や入館の際の手指の消毒や体温測定、子どもたちが児童館の中で密にならないように職員が巡回して声をかけるなど気を配っております。 令和2年度後半からは幼児と保護者向けの事業を再開しました。少しずつではありますが、小学生向けの事業も感染症対策を十分に行いながら、実施しております。 しかしながら、児童館においては子ども同士の交流や乳幼児の保護者同士の交流も役割のひとつですが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響により、かなり難しくなっております。 感染防止拡大の観点からはやむおえないことですが、今後感染状況に配慮しながら少しずつでも進めていきたいと考えます。 会議中「事業等の工夫」については事業を検討・見直ししていく機会になるとのご意見をいただきました。 令和3年度は各児童館で、現在行っているオンライン事業の充実や児童館のない場所への移動児童館の開催、中高生タイムを計画しております。 移動児童館については、指定管理者が運営する早稲田児童センターと南児童センターが、児童館のない地域において、幼児向けと小学生向けの事業を年間数回実施する予定です。 中高生タイムについては、国の「児童館ガイドライン」に中・高校生も利用できる施設として「中高生世代が利用可能な環境づくり」が示されていることから、早稲田児童センターと南児童センターにおいて、開館時間を延長し、居場所の提供を行うものです。

	毎年恒例の各児童館での「おまつり」は開催ができませんでしたが、令和3年度については、
	分散開催や規模を縮小するなど工夫した開催を検討しております。